

## 5. 橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

一般的に50年から60年と言われている橋梁の寿命を予防保全型の管理により延命化を図り、橋梁寿命を100年以上にすることを目標とします。

延命化にあたっては、定期点検の結果に基づく修繕と耐震化を併せて実施し、長期的な視点から、修繕と更新に係わる費用を縮減するとともに、ライフサイクルコスト(LCC)を考慮した最適な修繕工法等により事業費の平準化を図ります。

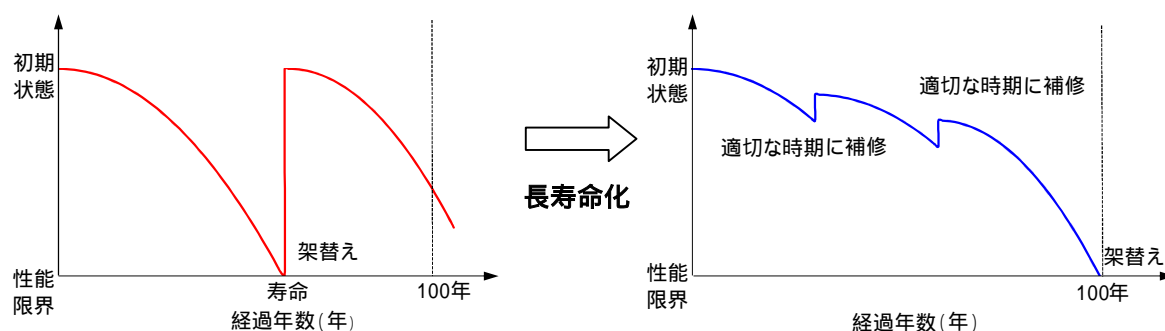


図-5 長寿命化のイメージ

### (1) LCC試算、最適工法の設定

橋梁37橋については、当初の設置から橋梁寿命100年間のLCCを試算し、橋梁ごとに、最適な修繕工法を設定します。

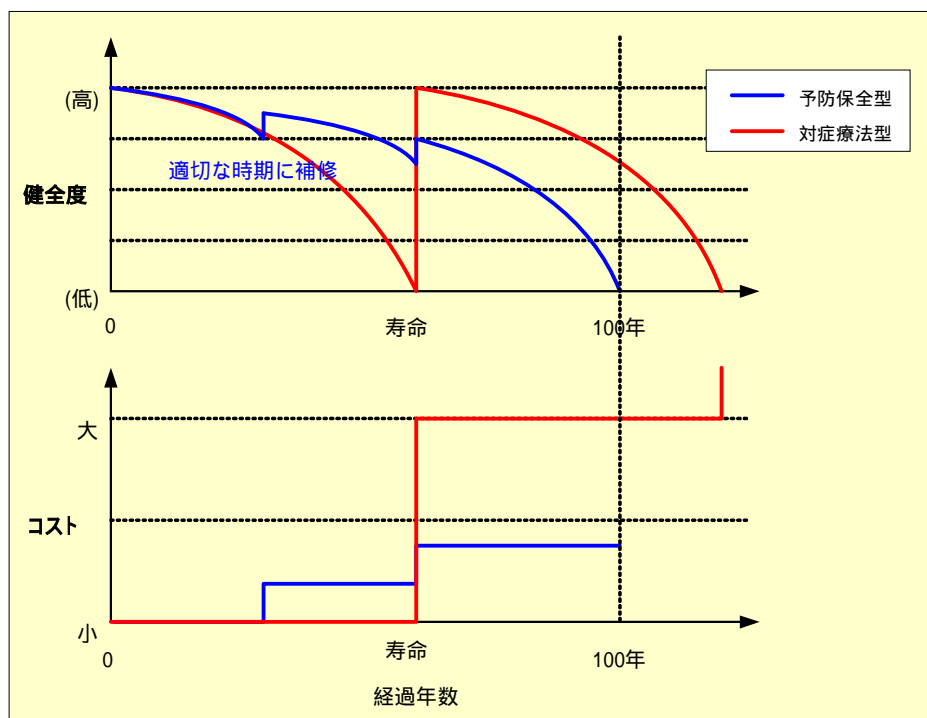


図-6 修繕のタイミングのイメージ

(2) 予防保全型による事業費の試算

限られた財源の中で、橋梁の修繕等を計画的に進めるため、「橋の重要度」(A種、B種の橋梁)、「診断結果」(健全度)等を勘案し、予防保全型により事業費を平準化します。

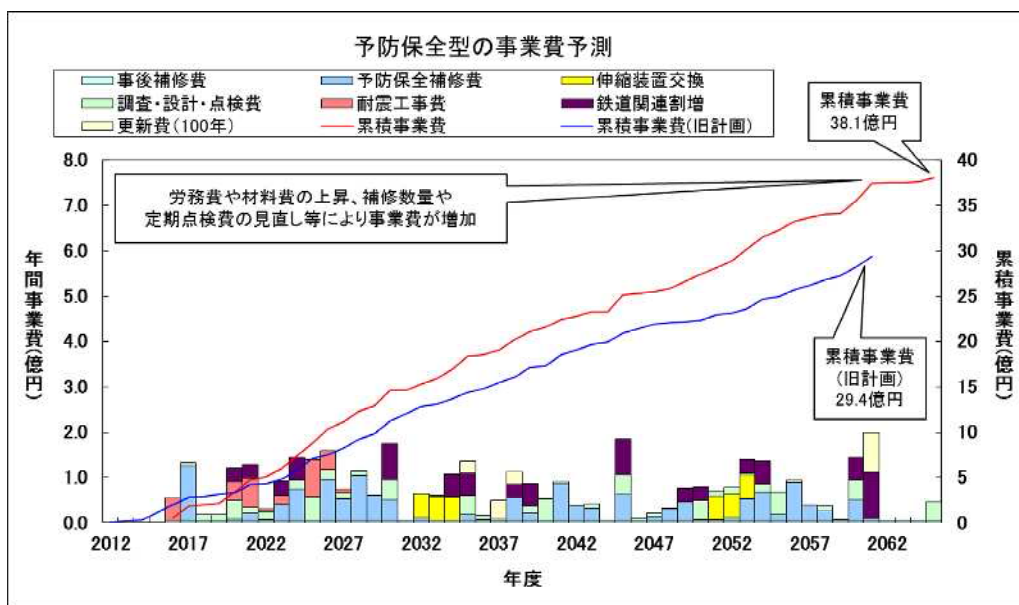


図-7 予防保全型の事業費用

(3) 対症療法型による事業費の試算

対症療法型による管理は、橋梁が寿命に達した段階で架替えを行うことになります。なお、架替えまでの期間は、当初の設置から60年と仮定します。

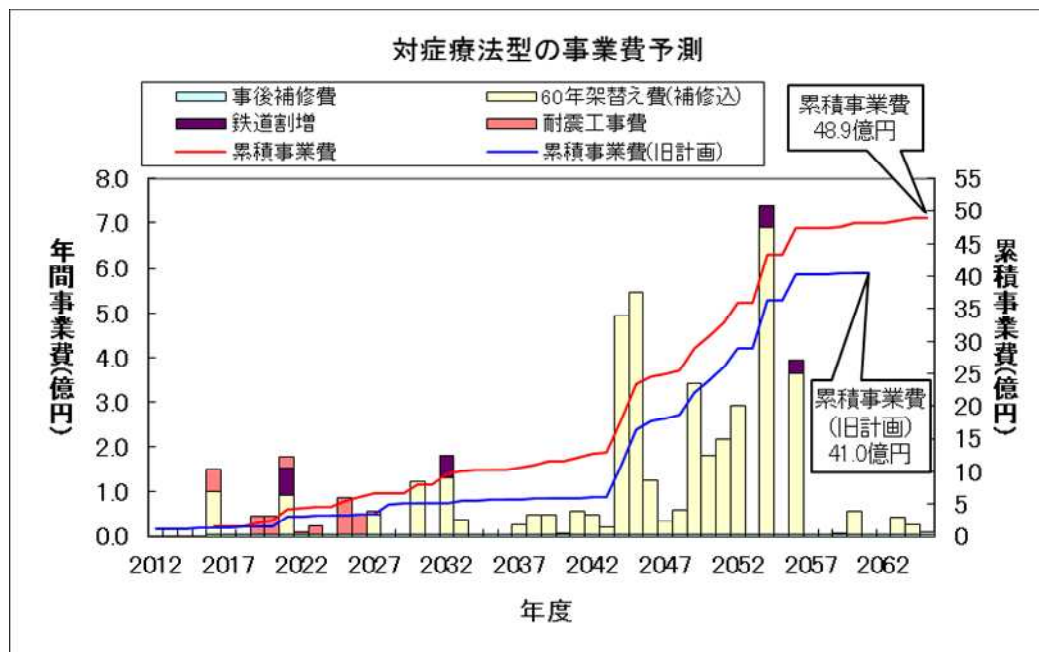


図-8 対症療法型の事業費用